

夢洲の一年を観てきて

写真文

大阪自然環境保全協会夢洲生きもの調査グループ



写真-1 夢洲IR予定地上空をコアジサシ300羽以上が舞う (2020.5.9)

ほんの数か月前までは、私たちの誰も、今このような日がやってこようとは、想像だにしなかったはずだ。未知の感染症によって外出自粛が続く3月、4月、5月…。人間社会は今、大きな価値転換を迫られている。しかし自然の営みは変わらない。夢洲にも、同じように春が来て、初夏の野鳥の繁殖シーズンが巡ってきた。5月上旬、絶滅を危惧されているコアジサシおよそ1,000羽を目撃。10年以上前には、ここに大きなコロニーができるていたそうだが、ここ数年営巣は確認されていない。しかし、つい最近池を埋め立ててできた広大な砂利場に、おびただしい数のコアジサシが、あたかも営巣場所を探しているかのように、お互いをけん制しあいながら飛びおり、また飛びあがり旋回する。オスがメスにえさを渡し、カラスを集め団で追う。交尾するペアや抱卵しているメスも確認。今年はここで新しい命の誕生も期待できそうだ。

この夢洲に初めて保全協会が見学に入ったのが昨年の1月。そして5月からは、NPO地域づくり工房と共催での地球環境基金助成事業「市民からの環境アセスメント」のワークショップの一環として、6回の生きも

の事前調査を実施した。9月からは定点調査として野鳥調査を18回行った。その間フォトアルバムを2回発行し、2回目のものは「都市と自然」前号に折込で配布させていただいた。また折々に夢洲の自然を残してほしい旨の要望書の提出や行政および国際博覧会事務局との意見交換などのアクションを行ってきた。しかし、それらはいつも体よくかわされ、昨年度早々「購入土砂」の投入が始まり(浚渫土や焼却灰ではなく!)、12月ごろからは急ピッチで池の埋め立て工事が進み、カモノラッシュ池は、50mプール2つ程度の水たまりを残し、ほとんど失われてしまった。

冬鳥シーズンにIR予定地の淡水池が残っていたことがせめてもの救いだったのかもしれない。3月29日、調査している私たちの頭上を、低空で白黒ツートンカラーの翼の大きな鳥が横切っていった。あれはコウノトリだったと思う。春になり、まだ水の残る万博計画エリア南地区には、シギ・チドリが多数立ち寄り、多種の水鳥がまだたくさんいる。IR予定地の池は埋め立てられたが、その工事中の砂利面に今度は「コアジサシの群れ、到来」である。ほんとに野生生物



写真-2 コアジサシ数羽、カラスを追う (2020.5.2)



写真-3 この土手の上に敷き詰められた砂利が営巣適地となった (2020.4.19)



写真-4 交尾 (2020.5.9)



写真-5 オスがメスに求愛給餌 (2020.5.9)



写真-6 抱卵しているメス (2020.5.9)

はたくましい。

しかし、毎日土煙を上げて工事車両が往来する悪条件の夢洲のような土地にも、これだけの数の野鳥が立ち寄る、ということは、大阪湾自体、ほかにもっと条件の良いところがあまり無い、ということを意味しているともいえるのではないか。

今年度も、NPO地域づくり工房の協力で、夢洲の生きものの調査が継続できることになった。しかし、夢洲への入場許可がどんどん厳しくなり、どこまで私たちの市民調査が許されるか、先行き不透明である。コアジサシ1,000羽を観た次の日、コアジサシは200羽ほどに減っていた。普段から定点で観察されている保全協会のみなさんには共感していただけることと思うが、同じ場所に時間や季節を変えて何度も通えば、新しい出会いがあり新しい発見がある。そして、いるという証明はできるが、いよいよという証明は難しい。2019年12月

に大阪市実施の環境アセスメントの「方法書」が開示されたが、その中に生物多様性ホットスポット A ランクである夢洲特有の自然環境に対し、具体的な生物種や調査方法は明記されていなかった。この環境アセスメントで、どれだけなにがわかるというのか。それ以上に、同じ夢洲内のコンテナヤードや焼却灰廃棄地区は環境アセスの対象外とし、IR計画地と万博計画地とを別々に分けて調査するやり方をとるということは、「自然環境」や「生きものの存在」を無視できる範囲に収めようとしているのではないか、と疑いたくなる。

オリパラ東京2020やドバイ万博が延期になった今、夢洲での2025年万博やIR開業に執着している場合ではないし、10年後、20年後の人間社会や地球環境を考える上で、緑地の経済効果はIRカジノとは比べものにならないほどの大きさがあるはずと思うのだが、今回突きつけられた

価値転換のチャンスを、私たち人間はどう生かすことができるだろう。この夢洲はこのまま大阪のゴミや浚渫土の捨て場として、大阪湾の防潮堤として、砂利面であってもいい、草原であってもいい、湿地であってもいい、人工物を作らず、夢洲の自然は自然界の営みに任せて、大阪湾にデーンと空気清浄機のように存在し続けてほしい。一年を通してみてきた私は今、ただただそう願う。

※ この後、工事休止の要望書を提出しました。詳細は協会HPをご覧ください。

(参考)

コアジサシは環境省RBで絶滅危惧II類。日本には夏鳥として飛来して繁殖するが、繁殖地の人為的な消失に伴い、個体数が激減している。営巣が確認された場合、保護に努めなくてはならない。(平成26年3月 環境省自然環境局野生生物課「コアジサシ繁殖地の保全・配慮指針」より)